

多摩支部会報

(2022年 迎春号一通算第45号)

令和4年1月吉日発行

明治大学校友会
東京都多摩支部
支部長 當麻 功
広報委 飯田光宏



2022年3月竣工予定
140周年記念事業
和泉キャンパス
新教育棟イメージ
エントランスイメージ

支部長挨拶

多摩支部の皆さまへ

當麻 功

(昭39年 商 小平)



多摩支部校友の皆様、あけておめでとうござい
ます。いつも多摩支部の活
動にご理解とご支援をいた
だきありがとうございます。

令和4年の干支は「壬寅」であります。
柳谷理事長が明大広報757号で語られてい
るように「壬寅」(みずのえとら)は、
「厳しい冬を越えて芽が吹き始め、あらた
な飛躍の礎となる」年と言われます。

昨年から今年にかけて、世界は3つのウィ
ルスに苦しみました。新型コロナウイルス、
コンピューターウイルス、情報(フェイク)
ウイルスです。特に私達にとって新型コロナ
ウイルス禍による苦しみは校友会始まっ
て以来の出来事でした。

ワクチン接種率が向上し、デルタ株が収まり
つつあるのは安心材料の一つですが、こ
こにきて、新変異型オミクロン株が出てき
ており、第6波かと疑わせる状況が出始め
ていることは、新たな不安を懸念させるこ
とかと思えます。

今年こそは失われたこの2年間の校友会
活動の再生・復興に向けて、しっかりと取
り組んでいきたいと思っています。

各地域支部におかれましては、支部長を
先頭に支部の持てる力を大いに発揮してい
ただきたく、期待しております。

今、第19回定時総会担当地域支部は実
行委員会を重ね、着々とその開催に向け
ての諸準備をつつがなく推し進めており
ます。確実に、安心・安全な大会が開催さ
れることを念じてやみません。

この年末年始、関東地方は晴天に恵まれ、
駅伝もラグビーも勝敗はともかく、大いに
楽しむことができました。

過去は過去、今年を良い年にすべく共に頑
張ってまいりましょう。

この1年、ご協力のほどお願い申し上げ
て年始のご挨拶といたします。

2022年
あけておめ
でようございます



ResetMori

明治大学校友会の新たな出発に向けて



校友会長 北野 大

明治大学の校友及び関係者の皆さま、あけましておめでとうございます。

我等が母校明治大学は1881年、3人の若き法学者による明治法律学校建学から、2021年に創立140周年を迎えました。昨年11月1日に行われた記念式典は厳粛な雰囲気の中、150周年に向けた新たな時代を切り開いていくという柳谷理事長、大六野学長の強い決意が披露されました。OBの一人として大変心強く感じた次第です。

さて、この原稿を書いている時点では我が国は幸いに新型コロナ感染者が激減しており、一安心するとともに、諸外国の例を見ても完全には安堵できないという複雑な心境です。コロナ禍で校友会活動は大きな影響を受けました。2年連続で代議員総会は書面審議となり、全国校友大会も同様に2年連続で中止となってしまいました。特に全国校友大会の開催に向けご尽力いただいた香川県支部と福島

県支部の皆さまに心からお礼を申し上げます。

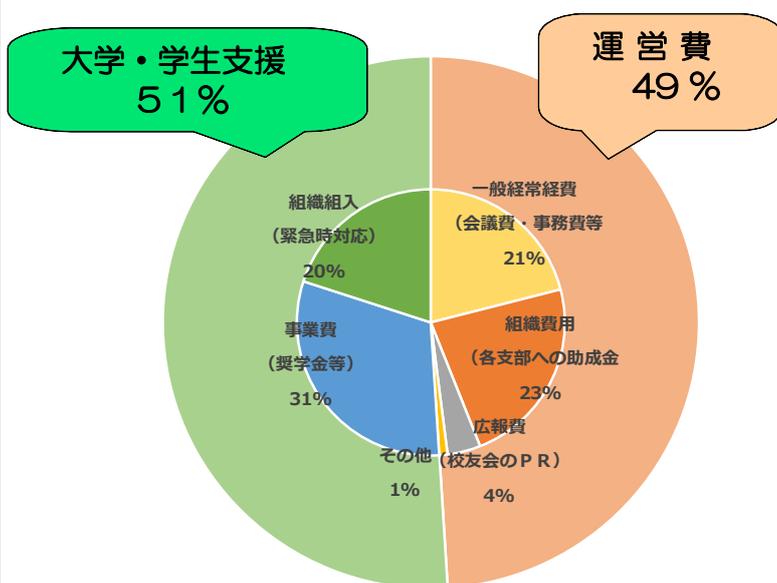
校友会活動の目的は母校の支援、校友相互の親睦ですが、私はこれらに加えて校友相互の支援の場にしたいと考えています。その一環として、本学校友で飲食店を経営されている方、または校友が代表である飲食店を集約したWebサイトが公開される予定です。皆さまの協力で、このサイトが少しでもお役に立てればと願っています。今後はほかの業種についてもこのようなサイトが設けられ、校友相互の支援の中で明大卒という固い絆がさらに醸成されることを願っています。

校友会が学校への提案も含めたあらゆる母校支援、そして母校と校友との一体化に向けた活動に邁進していく所存です。

2022年には代議員総会および全国校友大会をはじめ、各支部総会が盛大に開催され、校友一同、肩を組み合せて我が母校の校歌を声高らかに歌えることを祈り、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

(出典：円グラフデータも含め 広報757号)
お詫び：グラフは旨くスキャナーできず作成しました。一部見えにくいですがご容赦を。

明治大学校友会教育・研究振興資金にご協力ねがいます！



第58回 明治大学全国校友 明治はひとつ
岡山大会
2022.9/3(土)・4(日)・5(月)

9/3(土) 前夜祭 (岡山大学体育館)
9/4(日) 記念式典・基調講演 (岡山大学体育館)
9/5(月) エクスカーション (岡山大学体育館)

懇親会 (岡山大学体育館)

主催：明治大学全国校友岡山大会実行委員会
〒700-0822 岡山県岡山北區津島3丁目22-22 本館5F TEL:086-231-5411 FAX:086-231-4972
E-mail: info@meiji-okayama.jp http://www.meiji-okayama.jp

新型コロナウイルス感染症次第で変更があるかもしれません



当該「対談」につきましては全校友配布の「明治大学広報 1月号 No 757」に詳しく記載されておりますので、ここでは、その要旨だけをできるだけ更に簡易に要約させていただきました（出典：明大広報757号）

新春対談 「創立150周年に向けて『前へ』」

2021年の明治大学を振り返って —大学の対応や、今後の方針について

柳谷 孝理事長

- ①今理事会の役割は、「学生と教職員の健康と安全を守ること」「大学業務の継続性を守ること」を念頭に、生活困窮学生への支援金、全学生対象のオンライン環境整備支援など合わせて21億円等の学生支援
- ②他大学に先駆けての「明治大学学生・教育活動緊急支援金」ファンドの立ち上げと可及的速やかな支援体制の整備—多くの校友・ご父母からのご寄付4.6億円に加えて学校法人から拠出金を加えて、現在10億円超え。
- ③9月1日からの大学施設でのワクチン集団接種の遂行—1万人を超える方々2回目の接種完了等々、「明治は一つ」「同心協力」のもと対応してきた。

大六野 耕作学長

- ①2020年4月の学長就任以来、学生・校友・父母会等のご理解・ご支援により、突然訪れた感染症に対して、日々手探りで対応してきた。
- ②2021年に入ってからには経験を踏まえ、学生への支援や情報環境の整備などを引き続き行い、オンライン授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド形式で授業を運営してきた。10月からはキャンパス内の活気が戻りつつある。
- ③将来に向けて何をすべきかということ

が明確になった1年であった。

- ④次年度からハイブリッド形式も含めて、一段と教育効果の高いメディア授業を展開していく。

大学創立140周年記念事業についてはスペースの関係で割愛します。

長期ビジョン「MEIJI VISION 150—前へ—」に関して

柳谷 孝理事長

- ①明治大学の建学の精神や理念のもと、創立150周年を迎える2031年に向けてあるべき姿を示したものが「MEIJI VISION 150—前へ—」です。
- ②コンセプトは「前へ」です。副題は「個を磨き、ともに持続可能な社会を創る」です。
- ③多様な「個」を磨き、自らの道を切り拓く「前へ」の精神を堅持して、時代を変革していく人材を育成するという願いが込められています。
- ④教育研究の質的向上を支えるため強固な財政基盤の確立が重要です。そのため、基本金組入前当年度収支差額や寄付金について、具体的な数値目標を定めました。
- ⑤今理事会では初めて常勤幹事を置き、さらに本学初の女性理事や女性幹事を選任した。多様な視点とエビデンスに基づく意見交換を通じて健全な法人運営に努め、次なる飛躍を目指します。
- ⑥創立150周年に向けた大きな計画として、駿河台キャンパスにおいて神田猿楽町地区を中心とした施設整備計画を予定

⑦生田キャンパスにおける第二中央校舎の建設等、他キャンパスにおける施設整備計画を予定

⑧次代に向けた高品質のメディア授業やデジタル化による膨大な情報の統合管理の推進などの情報化戦略と合わせて、アジアのトップユニバーシティにふさわしいハブとなるキャンパスを目指し、大学のレジリエンスを強化していく。

⑨今後18歳人口の減少に伴う大学進学者数の減少は確実であり、将来にわたり入学者を確保するため付属校政策にも取り組んでいく。

大六野 耕作学長

①現在、学長室では長期ビジョンに基づく具体的なプロジェクトに着手している。

②メディア授業のガイドラインをはじめ、手続きの簡素化、柔軟な研究活動・教育活動のため優秀な人材を取り入れるためのクロスアポイント制度などです。

③10年後、さらにその10年後を見据えて世界、特にアジアの中で、明治大学で学びたい、研究したいと思ってもらえるような環境づくりに励む。

④駿河台キャンパス・猿楽町地区の再開発では、教学が将来のビジョンを描く中でも重要な位置を占めているということ意識しながら進めていきたい。

アジアのトップユニバーシティとして
輝くために
—2022年の法人・大学運営に関する
抱負について

柳谷 孝理事長

2022年は長期ビジョンに基づき、次の150周年に向けて「前へ」発信する年である。米国の著名大学を見ても極めて長い時間軸で大学改革に取り組み、その結果として世界のトップレベルを実現している。明治大学も長

期ビジョンをもとに、長い時間軸で未来の発展を実現していく必要がある。それを支えていくのは何といても人材です。中でも学校法人経営に関する行政や運営を中心となって支え、リードしていくのは職員の皆さんです。そのような観点から「MEIJI VISION 150—前へ」の大学経営における全学ビジョンに「職員人事政策、事務組織」の項目を入れました。ニューノーマル時代における職員は、急速に変化する外部環境に対して自己変革する能力であるダイナミック・ケイパビリティ（動的能力）と、決められたことを正しく的確に行う能力であるディナリー・ケイパビリティ（通常能力）を併せ持つ「プロフェッショナル人材」となることが求められます。

大六野 耕作学長

私は13年間ラグビー部の部長を務めてきました。1997年の大学選手権優勝を最後に2019年の王者復帰まで長い低迷のトンネルにありました。再び日本代表に多くの選手を送り出せるようになった背景には、極めてシンプルで覚悟さえあればだれもができる小さな努力の積み重ねがありました。勝てない理由をとことん突き詰め共通の理解とし、その解決への実行可能な方策をチーム・個人が考え、妥協せず実施し続けることです。部長はチーム・個人をサポートする体制づくりを行い、この一連のアクションを「よい準備」と位置付けました。

この「よい準備」づくりが責務と考え実行していきます。

（出典：明大広報 第757号）

柳谷理事長は「人材育成、人材投資」を本気で注力すると、大六野学長は「前を向いて」教育・研究に取り組める環境づくり「良い準備」をすると、結んでいます。

期待し応援しましょう。（多摩支部広報委員会）



無念！箱根駅伝復路3位も！シードならず

ベストメンバーで臨んだ往路は、まさかの17位という結果に終わった明大。何とか巻き返したい復路では、7区の富田峻平（営3＝八千代松蔭）が区間2位、10区の橋本大輝（営4＝須磨学園）が区間4位の走りを見せるも力及ばず。求めてきた強さを見せることができず、総合14位という結果に終わった。出典：明スポ ←NHK

『MEIJI PRIDE』！決勝進出



明大39－24東海大

写真提供：明大ラグビー部

RUGBY FOOTBALL CLUB
Photo by S.TAKAYAMA

紫紺のジャージーで背番号「10」をつけた伊藤は、迷わなかった。24－24の後半26分。明大の仲間からは「明治タイム」の声がかかった。練習を信じて走り勝つー。その一心で前へ進んだ。敵陣22メートルライン付近で持ったボール。内側に走る味方はマークされていた。「前が空いていなかったんで、自分で強いキャリアをしようと思った」。1人をはじき飛ばし、2人目も力ずくで振り切った。インゴールへ飛び込んで笑った。（決勝のトライとなった）

勢いはあった。準々決勝の早大戦勝利の流れに乗り、前半は0－3から3連続トライ。21－3と主導権を握って後半に入ったが、急に防御が乱れた。後半は開始15分で3トライ3ゴールを許し、気づけば21－24。強力FWを押し出す東海大にのみ込まれた。その時、SH飯沼主将の声が聞こえた。「準決勝、こうじゃないと面白くないだろう！」（記事出典：日刊スポーツ 松本航氏）

「明治タイム」：後半の後半時間帯・飯沼キャプテン＝苦しい時間が明治の得意な時間なので、ここからが明治の試合だよというのを、今までの試合よりずっと強く皆に伝えました 出典：rugby-japan.jp

編集後書 令和4年の正月はテレビ観戦漬けで始まりました。箱根駅伝はまたもや予選会からの挑戦となりましたが、この経験はきっと活かされることと信じます。ラグビーは強敵東海大学に終わってみれば快勝。「同心協力」「明治はひとつ」「前へ」の勢いを強く感じ、「これが明治のラグビーだ」と悦び入りました。決勝戦もこの勢いで対峙し、優勝をもぎ取って欲しいと期待します。一方、一時的に収束過程に入ったかと思われた新型コロナウイルス感染症は年末年始の人の動きに合わせるかのように第6波の様相を呈してきたかに思われます。加えて、オミクロン株という爆発的感染をもたらす恐れの変異株の出現！西欧や米国ではデルタ株かオミクロン株か定かではありませんが、日々の感染確認数には凄さまじいものがあります。今一度基本に立ち返り、感染予防の3密を徹底して本人・家族・友人・社会を守っていきましょうではありませんか、初心に帰って！

多摩支部広報委員会